2008年3月期中間決算説明会

2007年11月19日



代表取締役社長

山　口　　隆

あすか製薬株式会社

目 次

- 2008年3月期中間決算概要
- 研究開発ステージ
- 産婦人科領域の
  リーディングカンパニーに向けて
- あすかトピックス

2008年3月期中間決算概要



あすか製薬株式会社

2008年3月期中間連結決算の総括

- 売　上 高　　14,411百万円（前年同期比　△ 2.5% ）
- 営業利益　　943百万円（前年同期比　△14.1%）
- 経常利益　　1,024百万円（前年同期比　△ 7.3%）
- 中間純利益　　510百万円（前年同期比　＋56.7%）

1. 計画した売上の下期へのずれ込み、競争激化により減収
2. 営業利益及び経常利益は、売上原価率の低減ならびに販売費等の節減に努めたが減益
3. 中間純利益は、特別損失が大幅に減少し増益

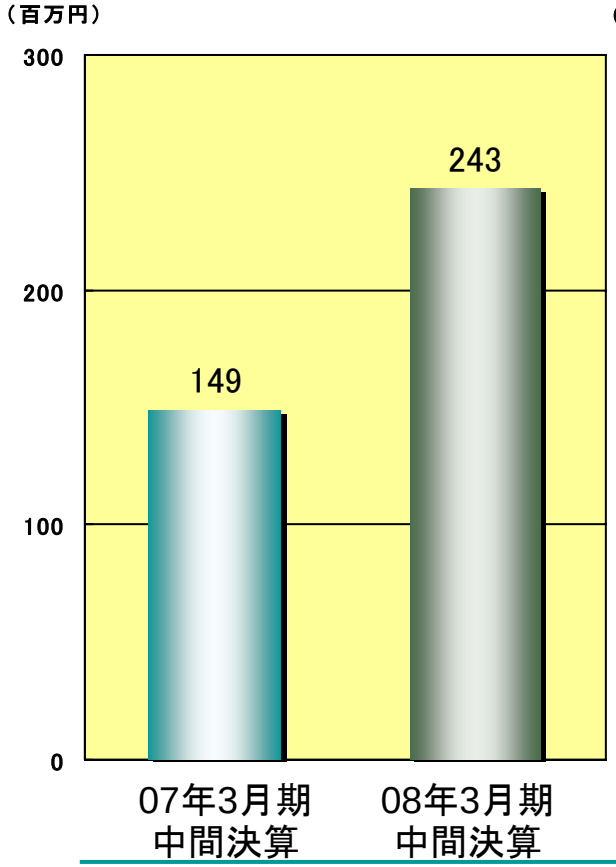
連結損益計算書

（金額単位：百万円）

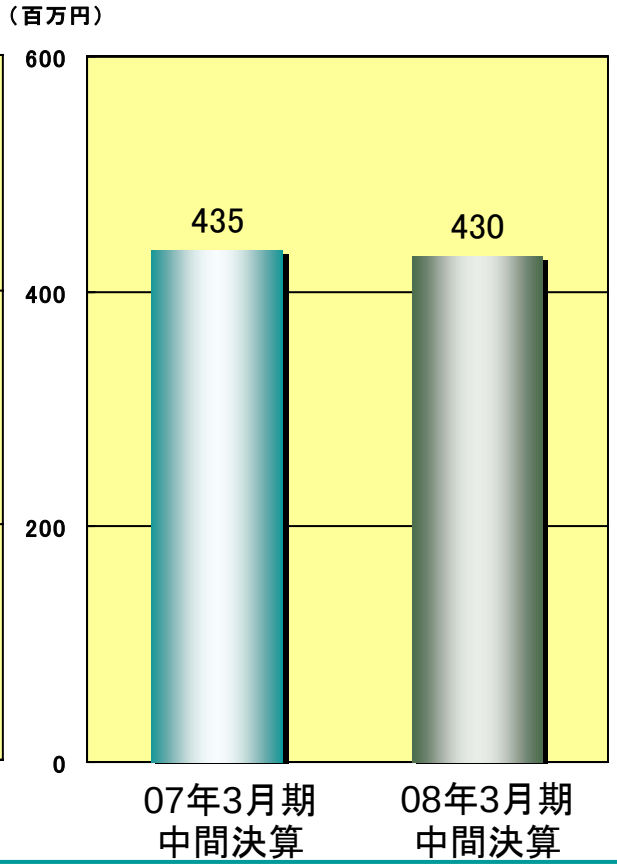
	07年3月期 中間期	08年3月期 中間期	増　減	前年比	08年3月期 計　画	計　画 進捗率	備　　考
売　上　高	14,776	14,411	△365	97.5%	31,800	45.3%	〈増収要因〉 動物用医薬品　66 〈減収要因〉 医療用医薬品 △402 リピディル　311、HMG 216、 アルタット △250、アルロイヤー △129 ラミアン △77、その他 △259 診断薬 △214（事業譲渡）
売 上 原 価	4,947	4,753	△194	96.1%	11,085	42.9%	売上原価率　△0.5ポイント （33.5% → 33.0%）
売上総利益	9,829	9,657	△172	98.3%	20,715	46.6%	
販　管　費	8,731	8,714	△17	99.8%	18,325	47.6%	
営 業 利 益	1,097	943	△154	85.9%	2,390	39.5%	
経 常 利 益	1,106	1,024	△82	92.7%	2,660	38.5%	
中間純利益	325	510	185	156.7%	4,250	12.0%	

設備投資等の概要

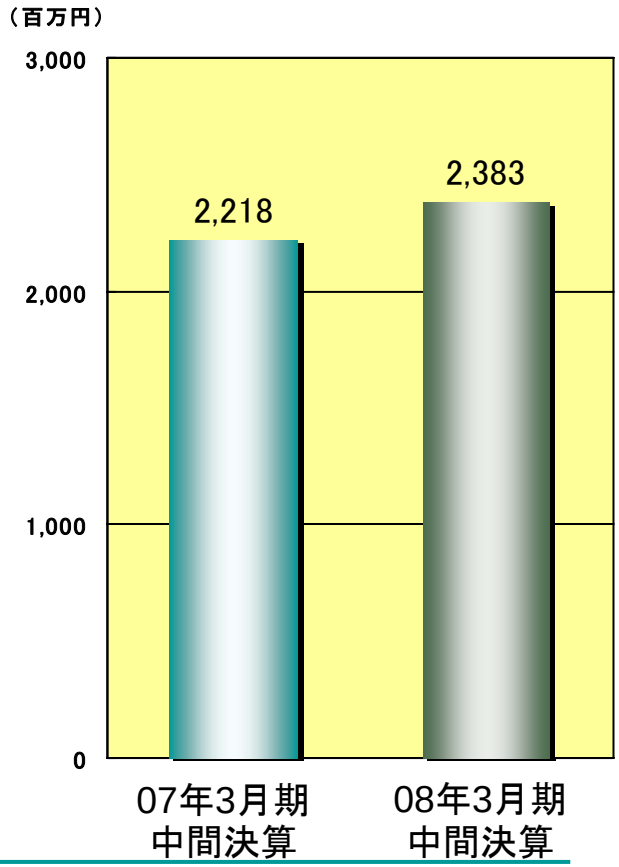
設備投資



減価償却費



研究開発費



連結貸借対照表

（金額単位：百万円 ）

借方				貸方			
	07年3月期 中間期末	08年3月期 中間期末	増減		07年3月期 中間期末	08年3月期 中間期末	増減
流動資産	25,808	27,985	2,177	流動負債	10,814	10,910	96
固定資産	25,322	23,717	△1,605	固定負債	8,827	9,260	433
資産合計	51,130	51,703	573	負債合計	19,642	20,171	529
				純資産合計	31,488	31,532	44

流動資産増因	：	現金及び預金	＋1,463	流動負債増因	：	仮受金 ＋492
		有価証券	＋1,008			短期借入金 △425
固定資産減因	：	投資有価証券	△1,492	固定負債減因	：	長期借入金 ＋332

連結キャッシュ・フロー計算書

（金額単位：百万円）

	07年3月期 中間期	08年3月期 中間期	増　減
営業活動によるキャッシュ・フロー	557	1,068	511
投資活動によるキャッシュ・フロー	558	△568	△1,126
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,236	△76	1,160
現金及び現金同等物等の中間期末残高	7,691	9,234	1,543

事業別販売実績(連結)

(金額単位:百万円)

	07年3月期 中間期	08年3月期 中間期	構成比(%)	増 減	前同比 (%)
医療用医薬品	14,000	13,598	94.4	△402	97.1
一般用医薬品	85	57	0.4	△28	66.2
動物用医薬品	484	550	3.8	66	113.6
医　療　機　器	36	36	0.2	0	102.1
そ　の　他	171	170	1.2	△1	99.5
合　計	14,776	14,411	100.0	△365	97.5

主要製品売上高

（金額単位：百万円）

	領域	製品	主効能	07年3月期中間期	08年3月期中間期		08年3月期通期	
				実績	実績	前同比(%)	予想	前年比(%)
	内	アルタット	胃・十二指腸潰瘍	2,105	1,854	88.1	3,946	95.5
	内	リピディル	高脂血症	1,621	1,932	119.2	4,288	123.0
	内	チラーヂン	甲状腺機能低下症	1,738	1,738	100.0	3,580	105.8
※	内	ラミアン	高脂血症	476	398	83.6	896	97.5
	泌	プロスタール	前立腺肥大症・癌	2,310	2,319	100.4	4,620	100.6
※	泌	ミクトノーム	頻尿、尿失禁	189	152	80.4	366	105.7
※	泌	リストリーム	前立腺肥大症に伴う排尿障害	297	310	104.5	670	114.5
	産	アンジュ	避妊	463	487	105.2	1,000	107.3
	産	HMG	下垂体性無月経の排卵誘発	204	420	206.0	884	204.0
※	産	ゴナピュール	下垂体性無月経の排卵誘発	59	129	217.9	290	227.3
※	耳	ミリカレット	アレルギー性鼻炎	132	76	57.4	500	94.7
※	耳	マインベース	一般感染症	116	115	98.7	412	142.0

※：ジェネリック製品

内：内科　泌：泌尿器科　産：産婦人科　耳：耳鼻科

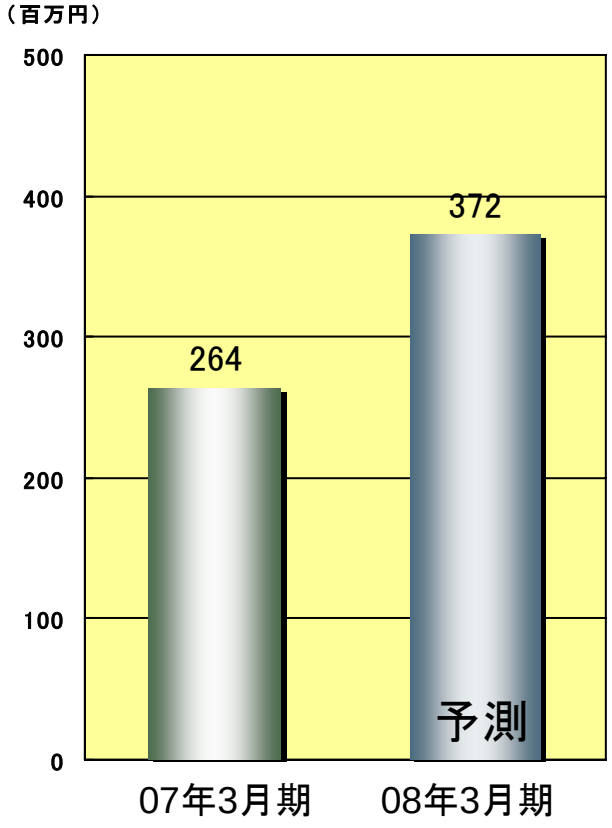
2008年3月期通期予想

（金額単位：百万円）

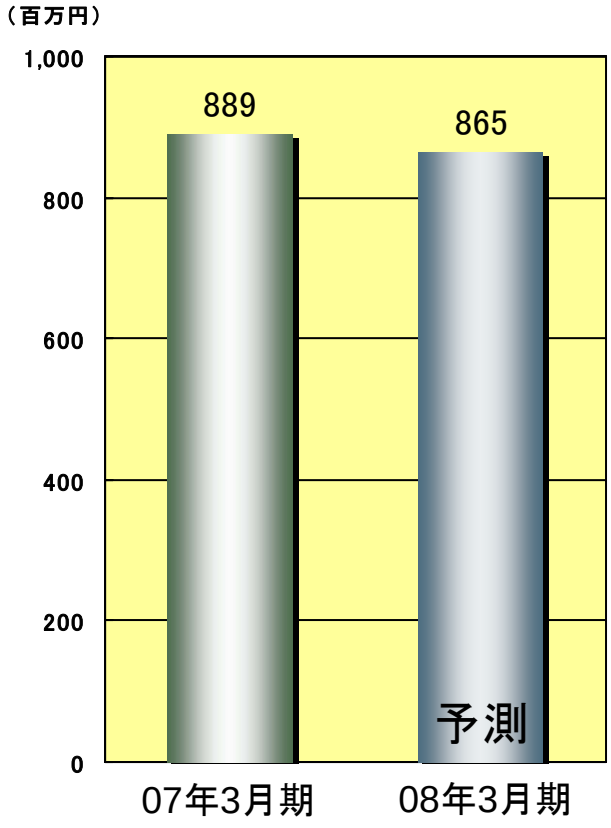
	07年3月期 実績	08年3月期 予想	増減	前年比	備考
売上高	30,301	31,800	1,499	104.9%	〈増収要因〉 医療用医薬品 1,391 リピディル 802　HMG 451 ゴナピュール 162 工業所有権等 525 〈減収要因〉 診断薬 △570（事業譲渡）
売上原価	10,222	10,920	698	106.8%	売上原価率 +0.6ポイント （33.7% → 34.3%）
売上総利益	20,079	20,880	801	104.0%	
販管費	18,060	18,490	430	102.4%	研究開発費 298
営業利益	2,019	2,390	371	118.4%	
経常利益	2,075	2,660	585	128.2%	
当期純利益	969	4,250	3,281	438.6%	

2008年3月期通期設備投資等の概要

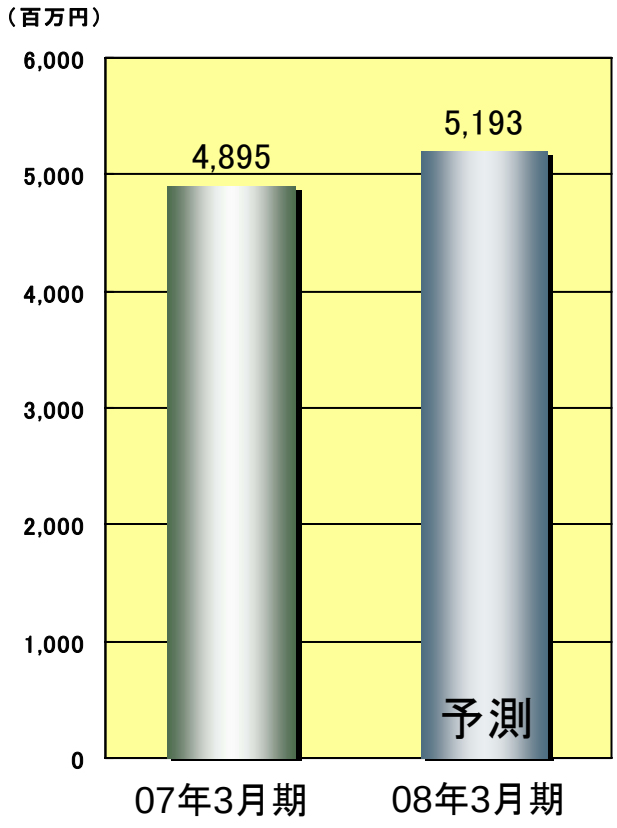
設備投資



減価償却費



研究開発費



研究開発ステージ



あすか製薬株式会社

新薬開発状況

開発段階	開発コード	起　源	適応症	特　長	上市時期
申請中	RPR106522	ヤクルト本社との共同開発 （サノフィ・アベンティスからの導入）	更年期障害	プロゲストーゲンを配合した貼付剤	2008年度
第Ⅲ相	BNP7787	BioNumerik社より導入	抗悪性腫瘍剤（タキサン系及びプラチナ系）投与に伴う神経障害の発現抑制作用を有する薬剤		2010年
第Ⅰ相(国内) 第Ⅱ相（海外）	TZT-1027	自社開発 （ヤクルト本社へ導出）	固形癌	幅広い抗腫瘍スペクトラムを有する	未定
第Ⅰ相	GPD-1116	自社開発	喘息 慢性閉塞性肺疾患	PDE4選択的阻害を有する薬剤	2014年
第Ⅰ相	AKP-001	自社開発	炎症性腸疾患	局所で作用して、全身的な副作用の少ない薬剤	未定
第Ⅰ相 準備中	BNP1350	BioNumerik社より導入	悪性腫瘍	新規（消化器毒性の少ない）のカンプトテシン誘導体	未定

産婦人科領域の
リーディングカンパニー
に向けて



あすか製薬株式会社

あすか製薬は
女性のreproductive healthとQOLをサポートします。

初経　結婚　妊娠・出産　閉経

思春期　成熟期　更年期　老年期

●頭痛・生理痛→ **グレラン・ビット　新発売:2007年11月29日**

●避妊→アンジュ
●無月経→オバホルモン、ソフィアA・C、ルテジオン
●月経異常→ソフィア、ルテジオン
●月経周期の変更→ソフィアA
●鉄欠乏性貧血→テツクール
●STD（クラミジア感染症）→マインベース



●不妊症→ **ゴナピュール、HMG注テイゾー** 、ゴナトロピン、セキソビット



●流・早産→ルテオニン
●分娩誘発・分娩後子宮出血→アトニン、メテナリン



●更年期障害→フェミエスト、ホーリン、
ボセルモン、サークレチン

メノエイドパッチ　（承認申請中）

●尿失禁→ミクトノーム



●骨粗鬆症→ホーリン、カルシトラン、ワークミン
●高脂血症→ラミアン、リピディル
●膣炎→ホーリンV

産婦人科領域市場の　10%　獲得

中　期　経　営　計　画　０６－０８

「産婦人科領域への取り組み①」

解熱・鎮痛剤 グレラン・ビット新発売

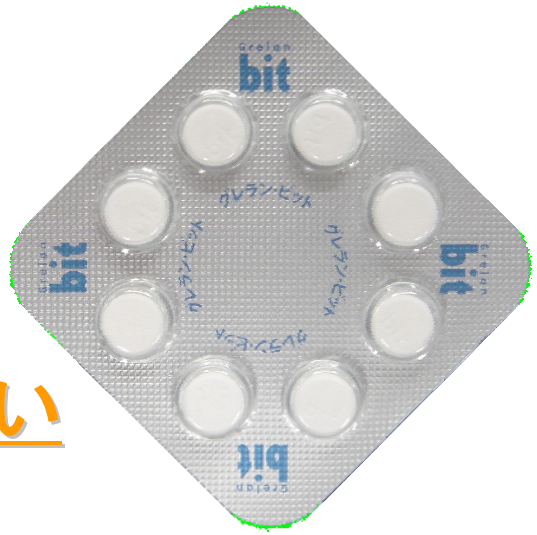
11月29日

OTC



ピーク時

目標売上高　5億円



- 頭痛・生理痛に早く効く
- 解熱・鎮痛剤中でもっとも小粒で薄い
- 携帯に便利なPTPシート

「産婦人科領域への取り組み②」

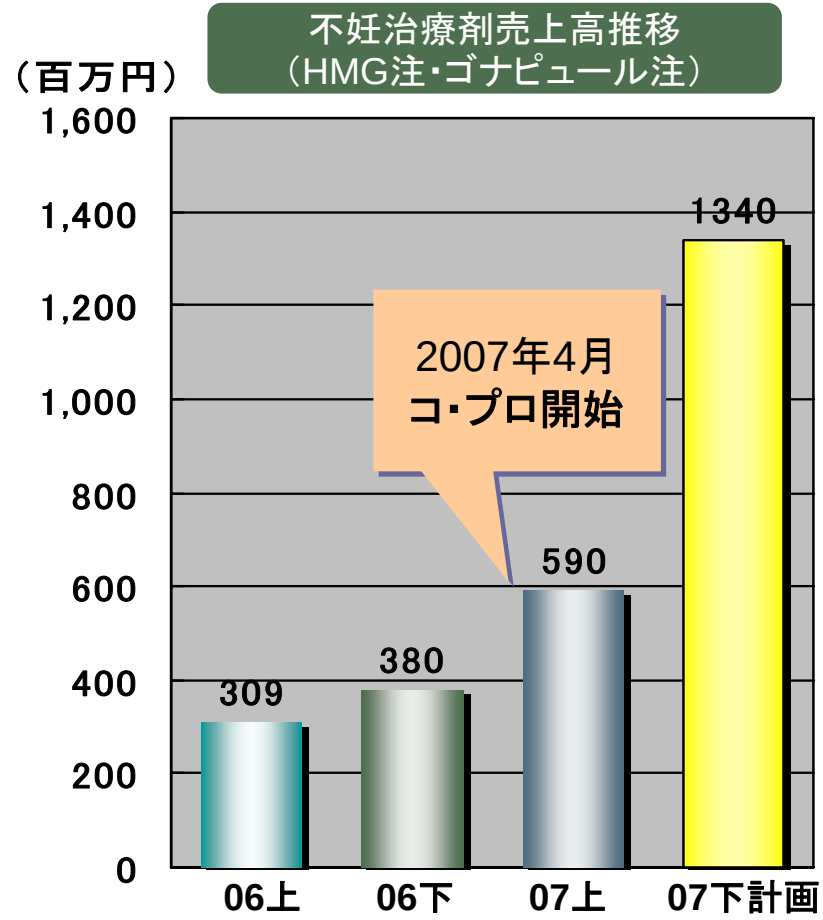
不妊治療分野のシェア拡大に向けて

＜メルクセローノ社とのコ･プロモーションの成果と今後＞

- 07年4月より弊社 の不妊治療剤（HMG注･ゴナピュール注）をメルクセローノ株式会社とコ･プロモーションを開始し、売上拡大に拍車がかかる

- 国内不妊症治療（注射剤）市場におけるシェア推移

2006年度上半期	10.9 %
2006年度下半期	11.5 %
2007年度上半期	23.1 %
2007年度下期目標	35.0 %



あすか製薬株式会社

「産婦人科領域への取り組み③」

不妊治療分野への開発展開

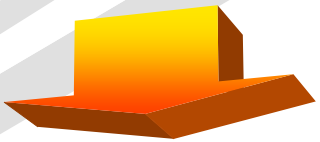
＜バイオ シミラー製品への挑戦＞

日本ケミカルリサーチと共同開発を開始

（リコンビナントFSH製剤　AKP－501）



2008年度末には第1相臨床試験開始



バイオシミラー先発としての優位性・競争力で

国内市場と**巨大な海外市場に挑戦できる**

「産婦人科領域への取り組み④」

更年期障害治療分野への開発展開

- 07年2月承認申請　⇒　08年度承認予定
  ＜製品名：メノエイドパッチ＞

- 本邦初の混合･配合貼付剤
  （卵胞ホルモン＋黄体ホルモン）
  ⇒コンプライアンス向上、女性のQOL改善

- 医療ニーズへの対応で市場拡大
  （ピーク時：10億円以上）

トピックス

経口製剤の
イノベーション

07年9月5日
リンテック社との業務・技術提携契約を締結





あすか製薬株式会社

進化する経口製剤　～内服薬の概念を破る～



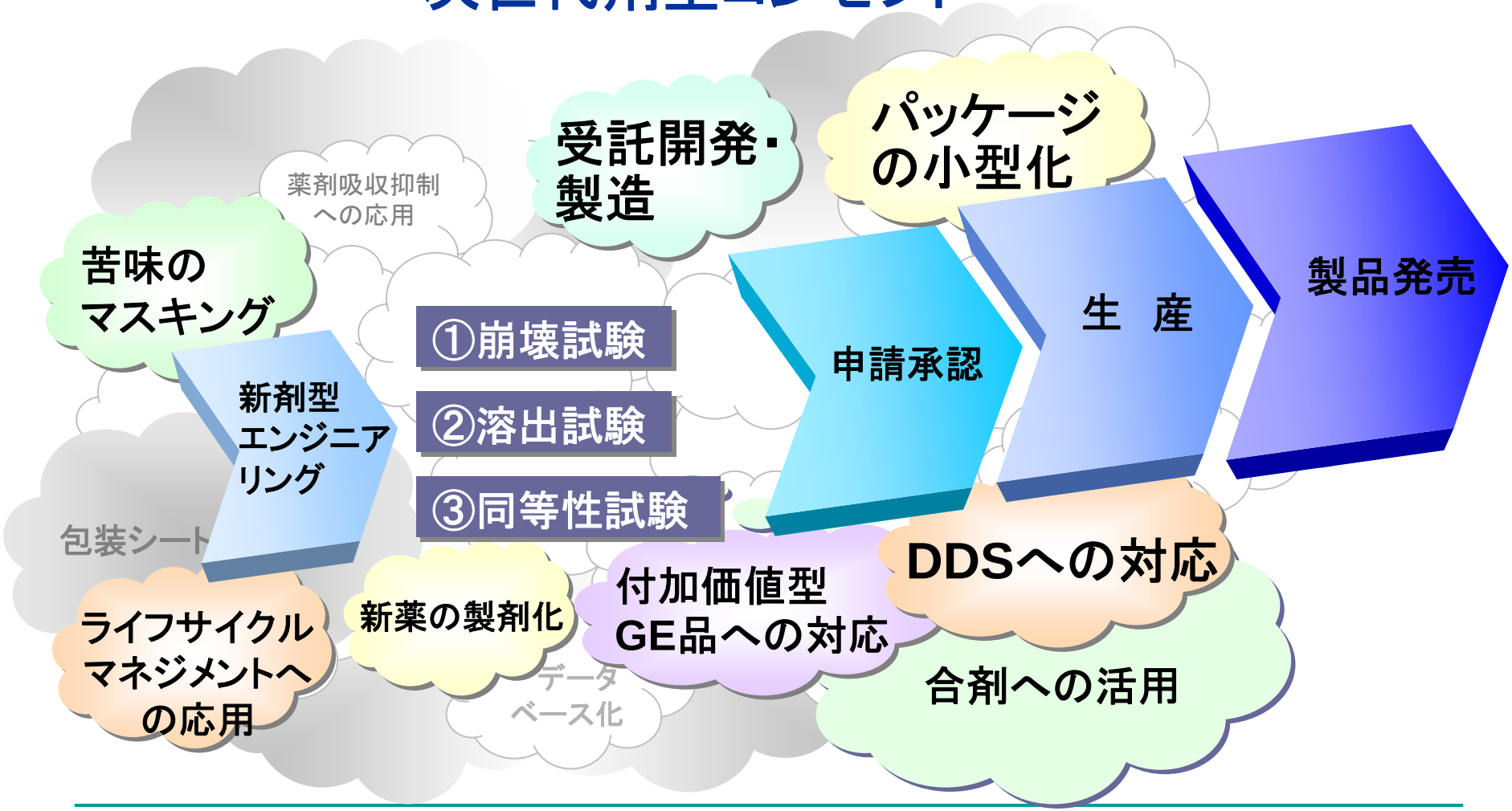
- フィルム型ゲル化層が唾液を吸収、ゼリー状に膨張して容易に服用できる
- ゲル化層で端部まで密閉できる
- フィルム型で扱いやすい

患者様のニーズを満足させる

- 水なしで素早く服用できる
- 服用時の苦味やザラザラ感がない
- 高齢者、小児でも嚥下が容易

製剤技術応用の将来展望

～次世代剤型コンセプト～



株主還元について



あすか製薬株式会社

配当方針

当中間期の１株当り配当金につきましては、７円といたします

２００８年３月期の１株当り期末配当金は7円とし、年間配当金14円とすることを予定しております

また、今後は配当性向最大50%（単体）を目標としてまいります

まとめ ①

- 中間期は目標売上高は若干の未達であったが売上原価、販管費の改善努力により目標利益は上回った
- 中間期は活発な活動が出来た。中期経営計画06 ～ 08の目標達成に向けて、引き続き力を緩めることなく積極的に活動していく
- 研究開発パイプラインの当面の短期・中期・長期開発戦略が整った

まとめ ②

- 産婦人科領域のスペシャリティーを目指し、「あすかの顔」構築に向けて不妊治療、更年期障害治療への新薬開発戦略を進めていく
- 次世代経口製剤として市場革新と多様化が期待できる経口フィルム製剤の製品開発を推進する

下期以降、予断の許さない状況が続く、危機感を持って取り組んでいく

将来予測に関する注意事項

この資料に含まれる将来の予測に関する事項は、発表日現在において入手可能な情報による当社の仮定および判断に基づくものであり、既知または未知のリスクおよび不確実性が内在しております

したがって、実際の業績、開発見通し等は今後さまざまな要因によって大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おき願います

医薬品（開発中のものを含む）に関する情報が含まれておりますが、その内容は宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません

お問い合わせ先

社長室

Tel　　：03-5484-8910

e-mail：sugimoto-t@aska-pharma.co.jp

担当　：杉本　隆雄